



自己理解
社会性

2-4-4 会話で困ったときどうしよう～「難聴理解かるた」を使って～

授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

<p>実態:小学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚活用ができる軽度中等度の児童や重度で人工内耳を使っている児童。 ・指文字や手話が必要な子どもがいる。 	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「難聴理解かるた」を用いて場面や状況を考えて、自己認識を深める。 ・「難聴理解かるた」の体験談から経験や感想を伝えることができる。 ・難聴の共通点や違いに気づき、コミュニケーションをとるのにどうすればよいかを考える。
---	--

<p>通級での指導・支援</p> <p>難聴児の自己認識を高めるために</p> <p>「きこえななかま集会」(週1回実施)</p> <p>○ 「難聴理解かるた」を使い、自己認識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かるたを通して場面や状況を考える。 ・読み札の体験談から同じ経験を探したり、そのときの気持ち等を伝え合ったりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>その①</p> <p>「先生から野外活動の説明があり、班に分かれて話し合いが始まった時、班の友だちが同時に話し始めたので分からなくなり、とっても困った。それで、ロジャーを使って話して欲しいと言ったら、ロジャーを使ってくれたので、分かりやすくなり、野外活動も楽しみになった。」</p> <p>その②</p> <p>「ロジャーを使うと周りの音も一緒に入ってしまうので、みんなが同時に喋ると分からない時がある。そういう時は必ず友だちが『きこえる?』ときいてくれるので、ありがと思う。」</p> <p>アドバイス</p> <p>「きこえないときは、みんなに『周りもうるさいから同時に言われると分からない。だから一人ずつ言ってくれる?』と言ったことがあるよ。」</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>絵札 表・裏(指文字)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>難聴理解かるた</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>読み札 表・裏(体験談)</p> </div> </div> <p>※ 「難聴理解かるた」について</p> <p>難聴の子どもと関わりのある教員、同級生、保護者の方々に、「きこえない、きこえにくい」とはどういうことなのかを知ってほしいと、当事者が作成したかるたです。難聴の子どもたちが学校・家庭生活においてどんなことに困り、どんなことに不安を感じているのかは、あまり知られていません。</p>	<p>通常の学級での指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に全校放送できこえの教室の子どもたちが、障害理解について放送を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 〔きこえの教室の秘密 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のきこえ方の違い ・補聴器の仕組み(得意なこと、苦手なこと) ・人工内耳の仕組み ・ロジャー(ワイヤレス補聴システム)の使い方 〔顔を見て話してほしいこと ・3学期には、学級で一人一人発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 〔補聴器体験 ・人工内耳の仕組み ・難聴体験 ・コミュニケーションをとるには等
<p>通級での変容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 伝える方法がいろいろあることを知ることができた。 * 自分の最善の方法で情報を得ることができるようになり、その方法で依頼してよいことを理解できるようになった。 * 友だちなどにしてもらったことに対してお礼を言えるようになってきた。 	<p>通常の学級での変容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自己認識が進んだことで、友だちとの自然なやりとりが増えた。

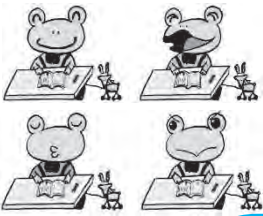


授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学生 ・吃音のある通級児童 7名 ・吃音が顕著に目立つ時期と目立たない時期が交互に現れる。 ・音節または音の繰り返しに加え、引き延ばしもある。	長期目標 ・自分の吃音と向き合い、悩みや困っていることを話すことができる。 ・吃音のある成人の方や大学生と交流して、将来のことを考えることができる。
---	---

通級での指導・支援 吃音のある児童の自己認識を高めるために <input type="radio"/> お楽しみ会を計画し実施する。 (自己認識の学習は、グループ指導が適切である。学期末毎に、吃音のある児童全員が集まるお楽しみ会を実施する。) ・高学年が計画し、児童に知らせる。 ・各児童が、お楽しみ会での出し物や遊びを考え、高学年に伝える。 <input type="radio"/> お楽しみ会をする。 ①工作やゲームをして遊ぶ。 集合するまでの時間を使って、工作(ストロー飛行機など)やゲーム(ぼうずめくりなど)をする。(時間調整とアイスブレイクの効果) ②「ようこそ・先輩」ゲストを招き、体験談を聞く。 吃音のある成人の方や大学生を招き、体験を聞く。 ③吃音に関わる経験を話す。 ゲストと共に、吃音についての悩みや困っていることを話し合う。 ④みんなで遊ぶ。 どの学年の児童も参加できる遊びやルールの工夫を考え、ドッジボールや鬼ごっこなど全員で遊ぶ。 <input type="radio"/> お楽しみ会の感想を書く。	通常の学級での指導・支援 ・吃音のことで、友だちにからかわれたり、「どうして、そんな言い方になるの?」などたずねられたりしたことがあるかを把握しておく。 ・吃音について、学級や学年の友だちに説明した方がいいのか、児童や保護者や通級担当教員と話し合う。 [説明の対象(学級・学年・学校)や内容、方法、時期など] ・通級での吃音理解の学習内容や吃音についての児童の悩みや考えを、通常の学級担任や保護者と共通理解し、環境調整や吃音についての配慮や支援を行う。
---	---

通級での変容 * 吃音のある成人の方や大学生の体験談を聞き、交流することにより、将来への見通しがもて、不安を取り除くことができた。 * 吃音のある児童と交流し、話し合うことにより、自分の吃音について見つめ直す機会になった。また、吃音の悩みや経験を共感し合うことができ、自己肯定感が高まった。	通常の学級での変容 * 自分の吃音のことを、自分で友だちに言うこと(自己開示)ができた。 * 発話意欲が高まり積極的に学校生活に参加できるようになった。
--	---



コラム⑱ 《学級で話をするときに》

通級による指導を受ける児童生徒にとって通常の学級の友だちや先生の理解がとても大切です。通級担当教員がその子どもの在籍する学級でみんなに話をするもありますが、大切なのは事前に必ず本人や保護者と確認することです。

①何を伝えるのか

例えば…得意なこと・不得意なこと、感覚の違いがあること、学び方の違いがあること、支援機器の活用（カメラ・タブレット PC 等）が学習に必要な場合もあること等

②誰がいつ伝えるのか

例えば…本人が話すのか、先生と一緒に話すのか、先生が話すのか、本人がいないときに先生が話すのか、伝えるタイミング等

揺れる子どもの気持ちに寄り添いながら、本人の気持ちを聞き取り相談して決めることが大切です。



小学校の児童へは…

「人は一人一人得意なことや不得意なことが違います。学び方も違います。自分に合った学習方法を見つけるために通級指導教室へ行きます。△△さんは、集中して学習する力を付けるために通級指導教室に通うことになりました。

自分が頑張ろうと思うことを学習しに行くので、みんなも仲間として応援してください。出かけるときには『行ってらっしゃい』、教室に戻ってきたときには『おかえりなさい』の声かけがあるとうれしいです。」と話すことがあります。



中学校の生徒へは…

「通級指導教室とは、特定の教科が苦手、集中して物事に取り組むことが苦手、友だちとの人間関係を作り上げることが苦手と感じている友だちが、それぞれの苦手を克服するために、個別に学習する教室です。自分に合った学習方法を身に付けられる場所でもあります。」と通級とはどんな場所かを話すこともあります。

また、「〇〇さんは4月にみんなと同じように□□中学校に入学してきました。今まで授業中も一生懸命に努力して、先生の話の聞いたり、ノートを書いたりしてきました。でも、〇〇さんや保護者の方から『特に数学が苦手で、分かるようになりたい。集中できる通級指導教室で苦手な学習にじっくりと取り組みたい。』と希望がありました。保護者の方も〇〇さんの希望を応援したいと言われました。〇〇さんや保護者の方と先生で話し合っ、数学の1時間だけ教室を離れ通級指導教室に行き、本人に合う方法を見つけるために学習をしていくことになりました。〇〇さんが勇気をもって決心してくれましたが、学級から離れて学習することについて大変不安をもっていると思います。みんな、〇〇さんをそっと温かく見守ってください。」と周りの生徒に話をすることもあります。